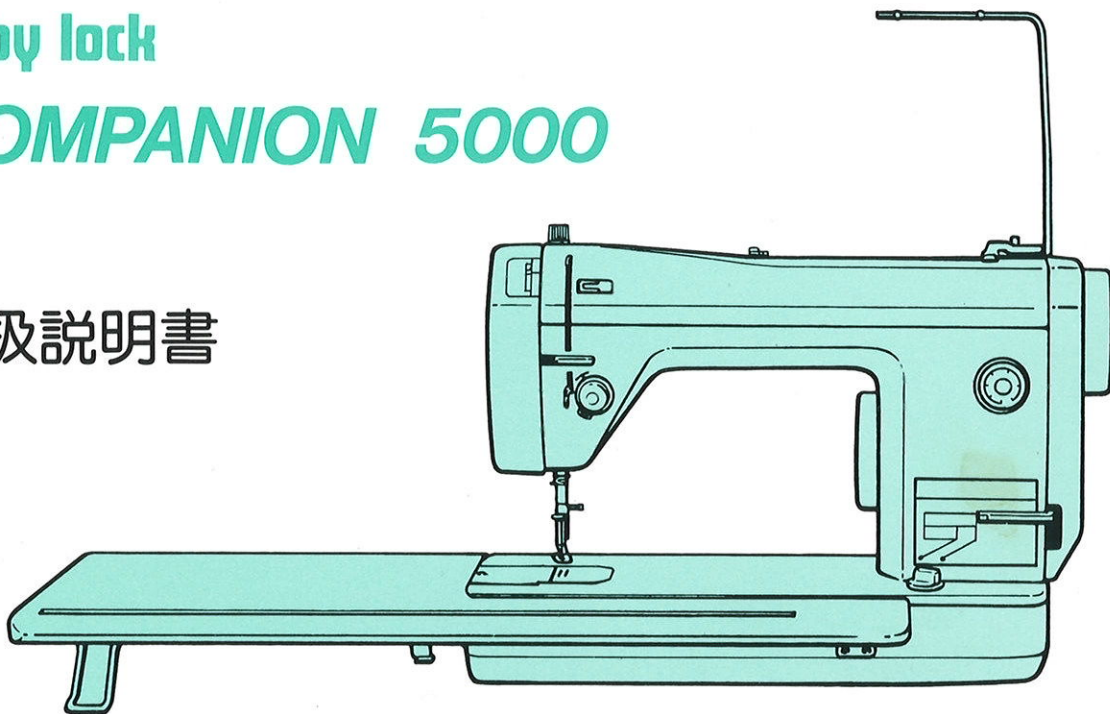


baby lock

COMPANION 5000

取扱説明書



お買い上げまことにありがとうございます。
この製品のすばらしい性能
と、その正しい使い方をご理解いた
だくために、まずこの《取扱説明書》
を最後までよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書とと
もに、必ず保存してください。

目

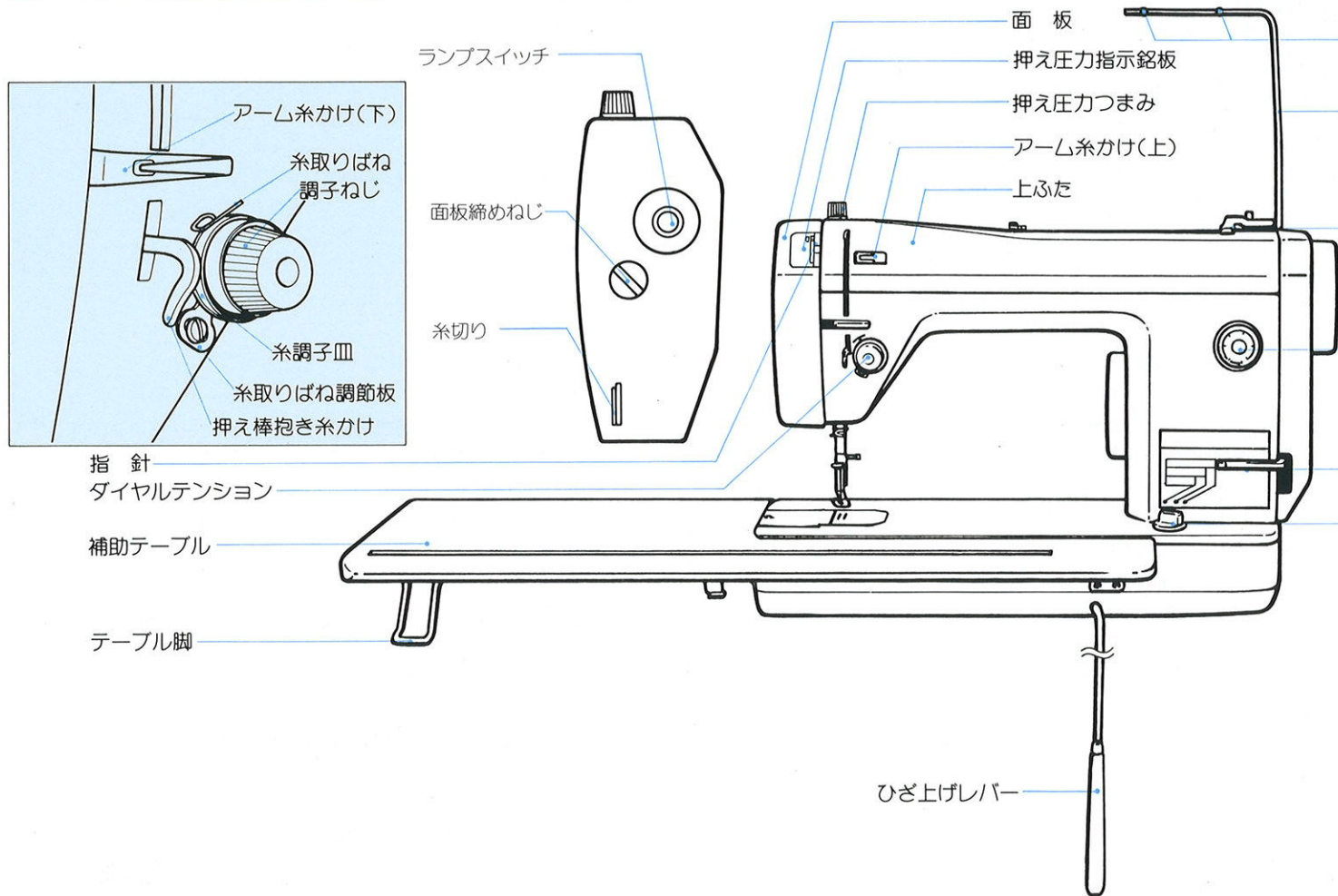
各部の名称	1~2
付属品	3
各部のはたらき	4~5
送り調節ダイヤルと返しぬいレバー	4
押え上げてこ	4
ひざ上げレバー	4
押え圧力つまみ	5
ドロップフィードつまみ	5
針を取り替えるには	5
正しい針の調べ方	5
補助テーブルの取り付け方	6
運転の手順	7
上糸の準備	8
上糸のかけ方	9
下糸の準備	10~11
下糸の引き上げ方	12
試しぬい	13~14
糸調子	15
ベルベット(ぬいずれの起こりやすい布地)のぬい方	16~21
ぬう前の準備	16
地ぬい	17

次

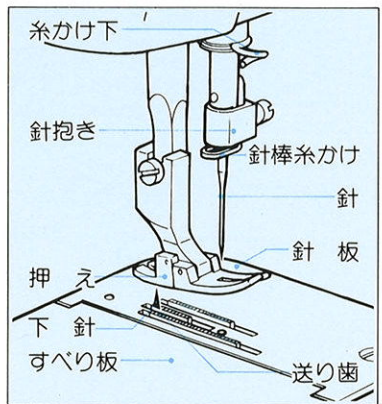
(裏地つけ)	18~19
飾りステッチ	20
布地の途中からぬい始めるには	21
三つ巻きぬい	22~23
押えの取り替え方	24
針板の取り替え	25~26
簡単な調節	27
下糸巻き案内の調整	27
ミシンの手入れと注油	29~30
送り歯とかまの掃除	29
注油	29
底板のはずし方	30
調子よくぬえない原因と調整の仕方	31~32
いつまでも大切に使うために	33~34
下針を交換するには	33
いつもきれいに	33
ミシンが動かなくなった場合	34
カーボンブラシを取り替えるには	34
ランプの交換	34
仕様	35

本機付属品以外の部品を使用したり、
まちがった取り扱い方をすると故障
の原因になります。

各部の名称

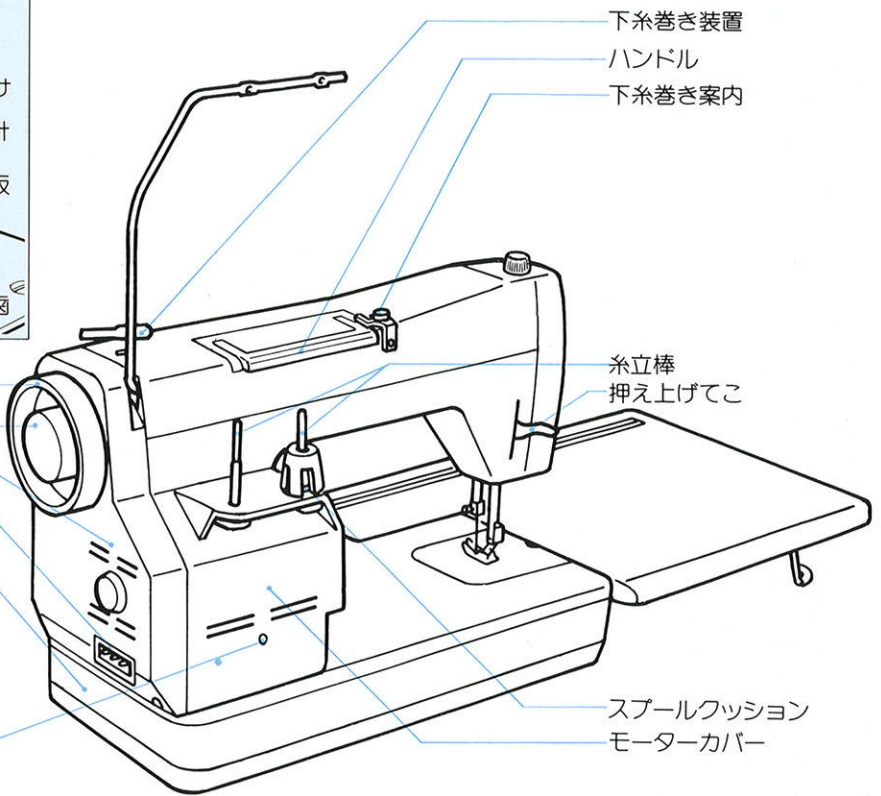


- 糸通し穴
- 糸案内棒
- ボビン押え
- 送り調節ダイヤル
- 返しぬいレバー
- ドロップフィードつまみ

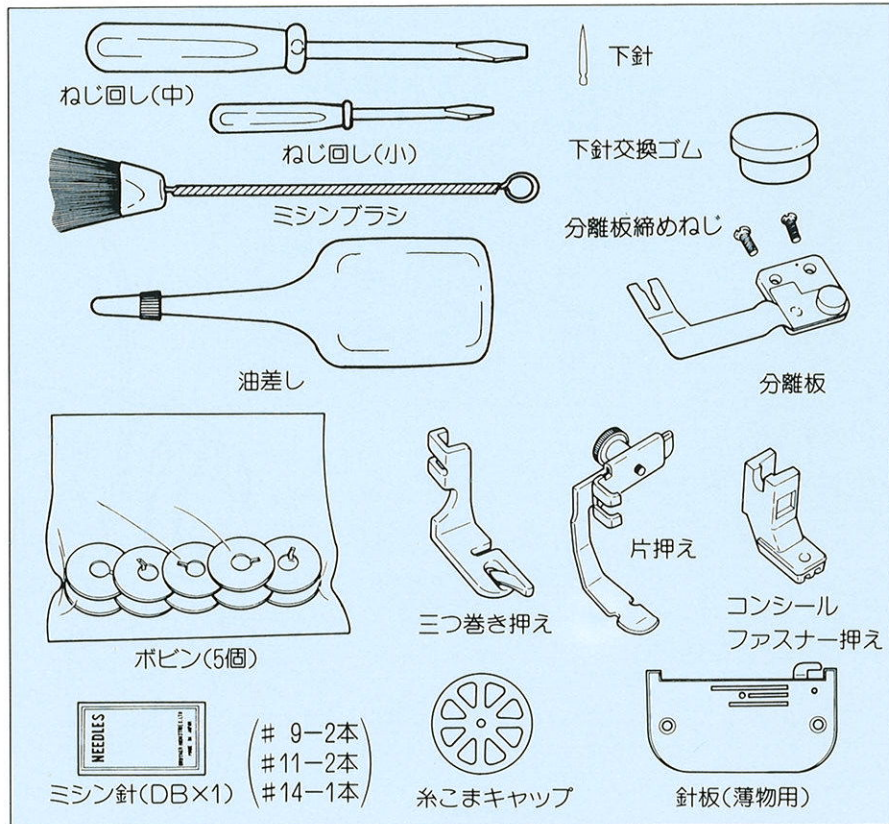
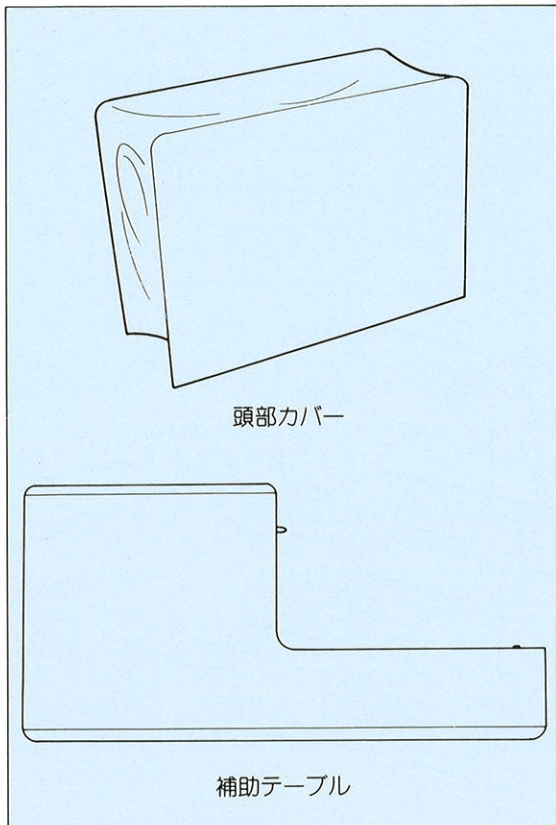


- プーリー
- ストップモーション大ねじ
- ベルトカバー
- 四極ソケット
- 底板

安全装置ボタン

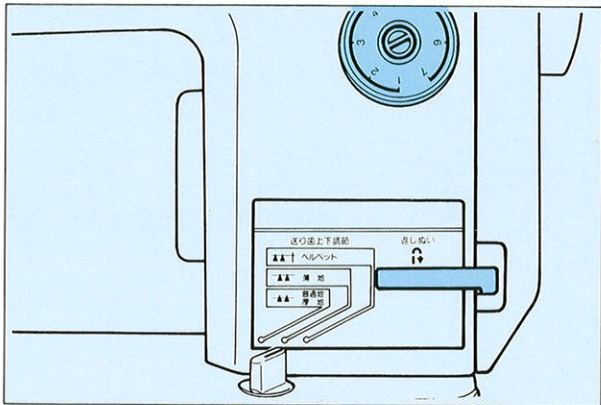


付属品



各部のはたらき

送り調節ダイヤルと返しぬいレバー



送り調節ダイヤル

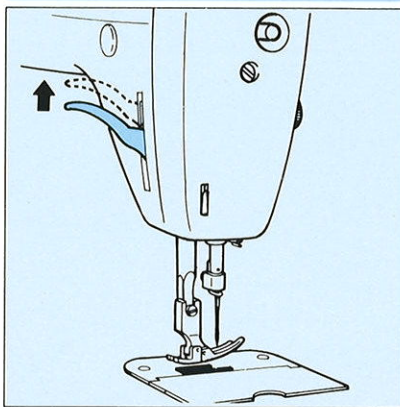
ぬい目の長さを調節することができます。

返しぬいレバー

下へ押さえている間だけは返しぬいができます。

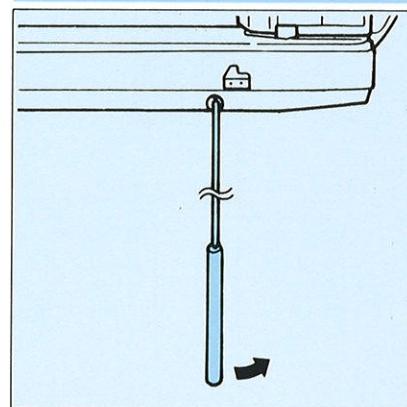
※いっぱい押し下げてください。

押え上げてこ

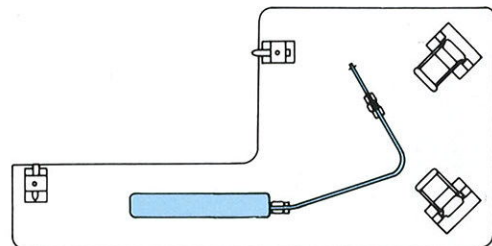


厚地の重ねぬいなど押えの下に布地が入れにくいときに、押え上げてこをもう1段上げると便利です。

ひざ上げレバー

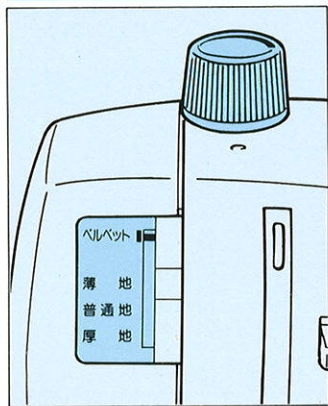


ぬい始め、ぬい途中に布地から手を離さず、ひざで押えを上げたり、下げたりすることができます。



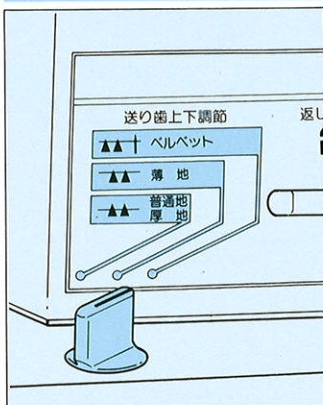
※格納は補助テーブルの裏側にできます。

押え圧力つまみ



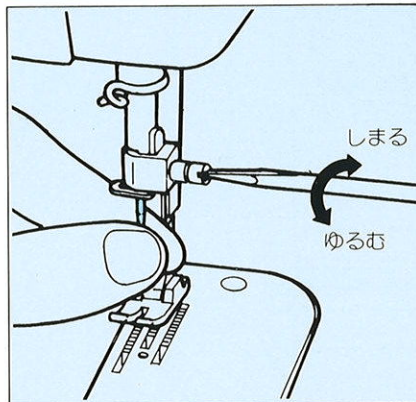
押え圧力つまみを回すと指針が上下します。

ドロップフィードつまみ



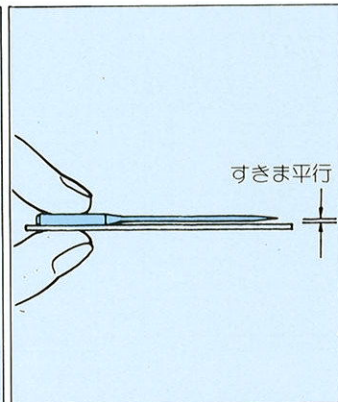
布地の厚さによってドロップフィードつまみを合わせます。
※ベルベットは、16～21ページをご覧ください。

針を取り替えるには

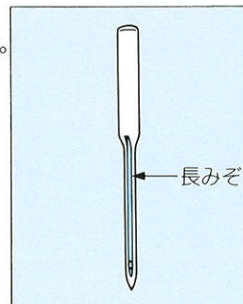


- ① 押えを下げます。
- ② ねじ回しで針抱き締めねじをゆるめ針をはずします。
- ③ 新しい針の長みぞを左側にして、つかえるまで差し込みます。
- ④ 針抱き締めねじを締めます。

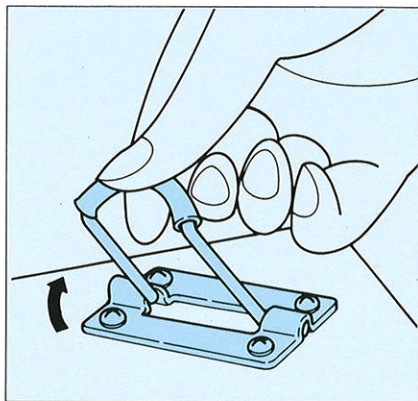
正しい針の調べ方



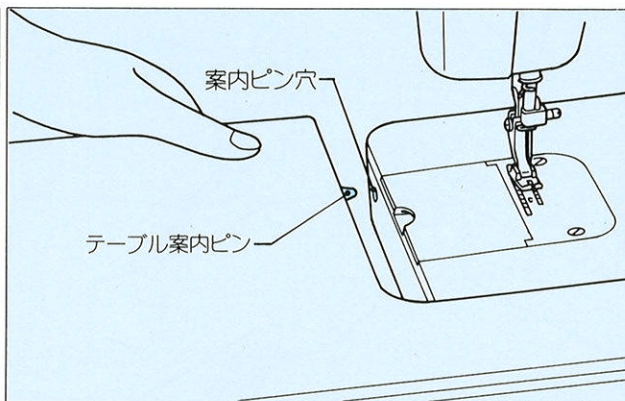
針の不良は、目とび・糸切れ・布地をいためる原因になりますので、ときどき点検をしてください。



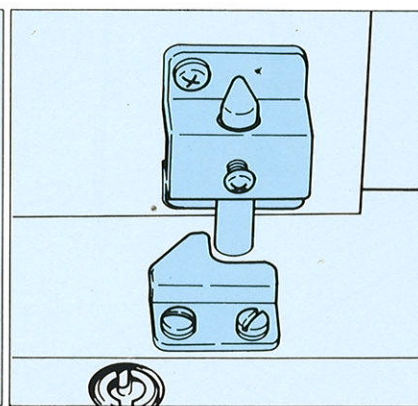
補助テーブルの取り付け方



①補助テーブルの足を起こします。



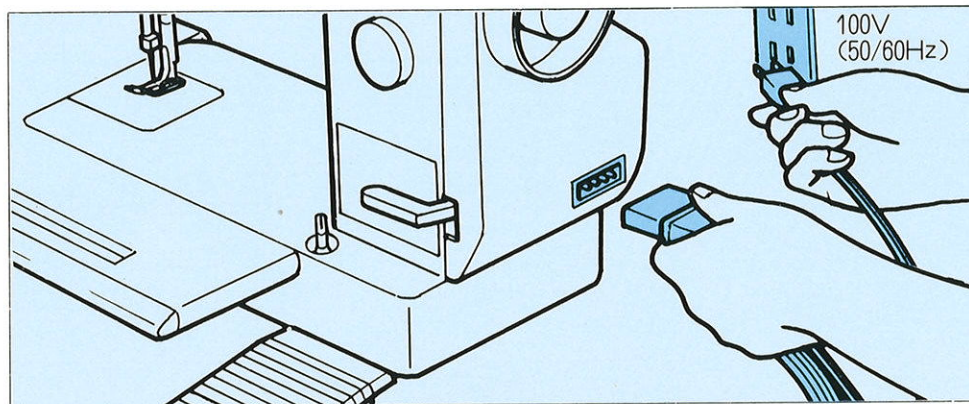
②補助テーブルを少し持ち上げ、テーブル案内ピンを案内ピン穴に入れます。



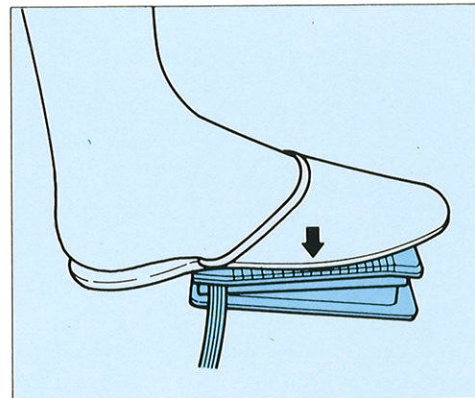
③テーブル案内軸にテーブル止め板のL部におろします。

※補助テーブルを取りはずすときは、取り付けたときの反対の手順で行ってください。

運転の手順

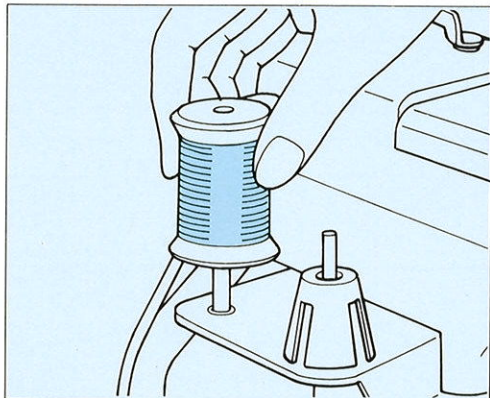


- ①電源コードをミシンとコンセント(100V 50/60Hz)に接続します。
※ミシンを使用しないときは必ずコンセントから抜いてください。



- ②コントローラーは強く踏むほど速くなります。
※最高ぬい速度は、毎分1,500針です。
※コントローラーの上にものをのせないでください。

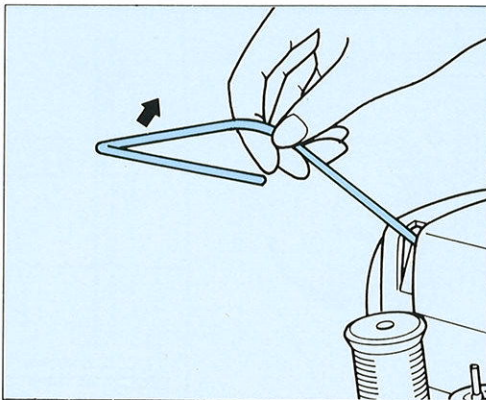
上糸の準備



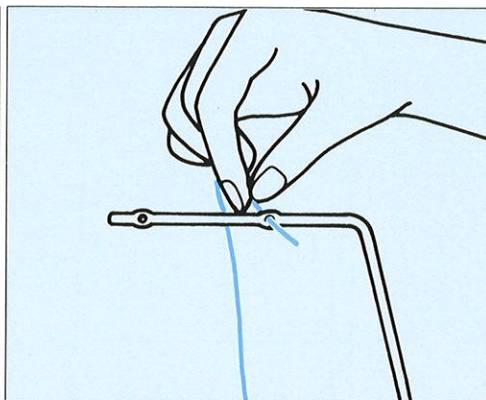
①糸立て棒に糸こまをのせます。

※糸こまの場合は、糸こまキャップを使用してください。

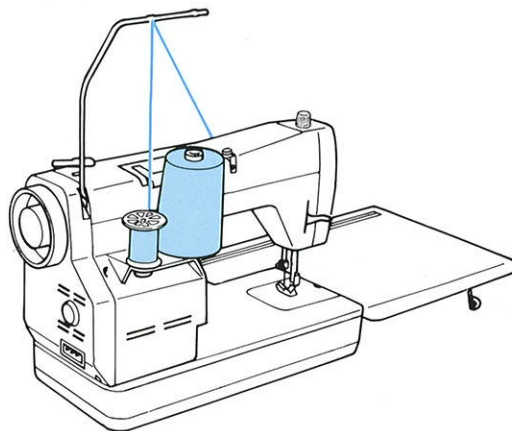
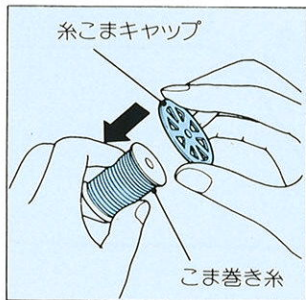
※チーズ巻き糸の場合は、スプールフックの上ののせてください。



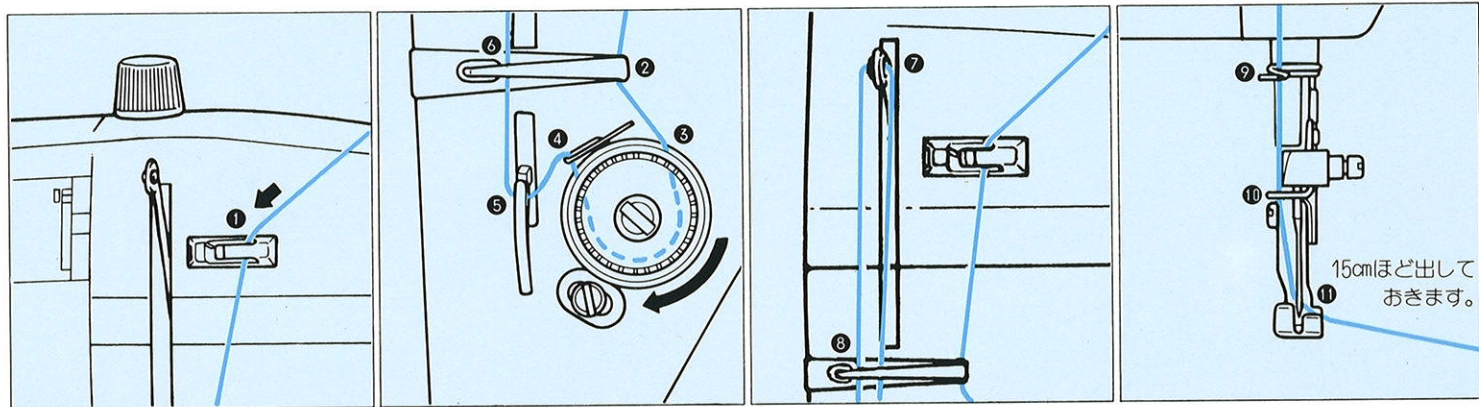
②糸案内棒を起こします。



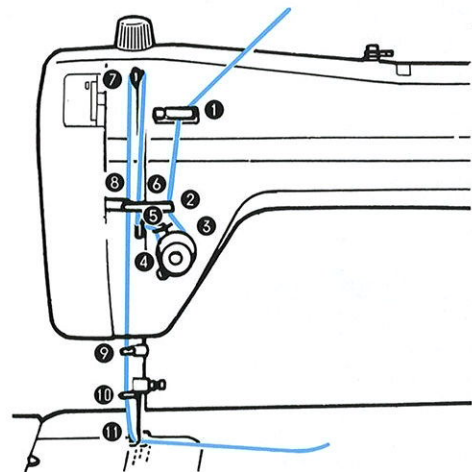
③糸を糸通し穴に通します。



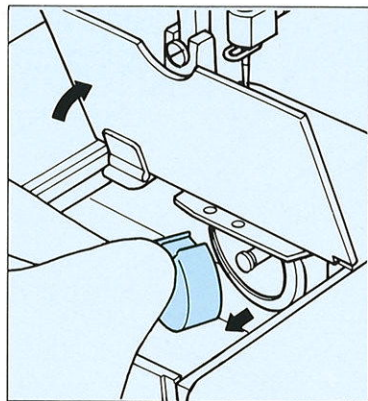
上糸のかけ方



天びんを最高の位置にします。



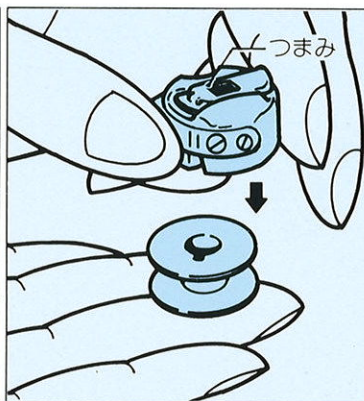
下糸の準備



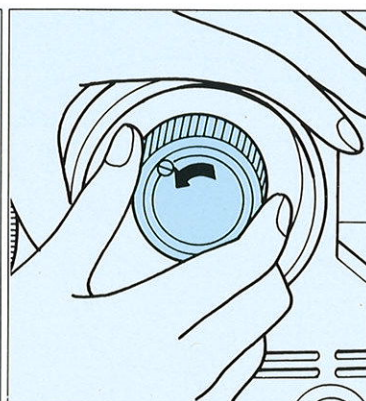
① 針を上げます。

② すべり板をはね上げます。

③ つまみを持ってボビンケースを取り出します。

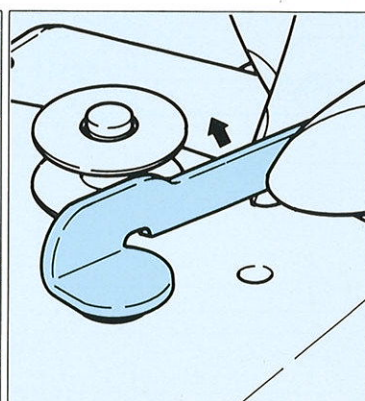


④ つまみを閉じてボビンを取り出します。

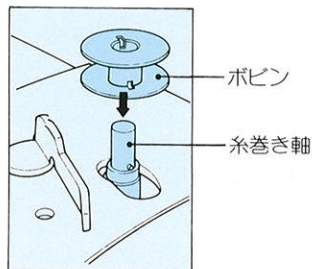


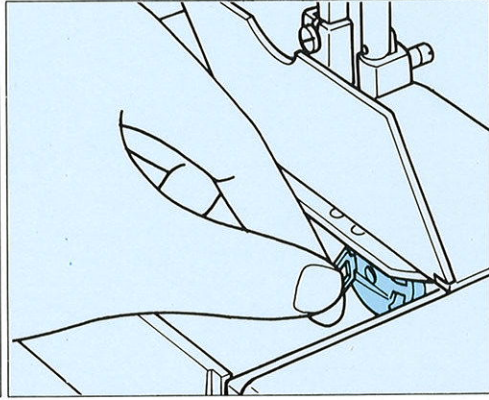
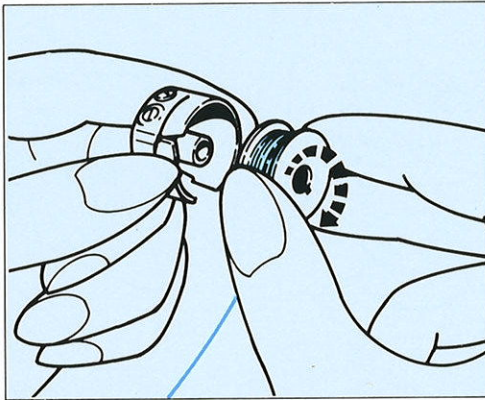
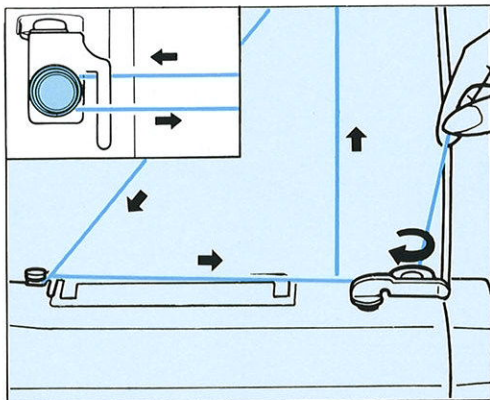
⑤ ストップモーション大ねじをゆるめます。

⑥ 糸巻き軸の凸部にボビンの凹部が合うようにはめ込みます。



⑦ ボビン押えをボビンのみぞに押し込みます。





⑧糸を引き出し、糸案内棒に通します。
下糸巻き案内皿に糸を通します。

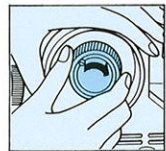
⑨糸をボビンに3~4回巻きつけます。

⑩押え上げてこを、おろします。

⑪コントローラーを踏みます。

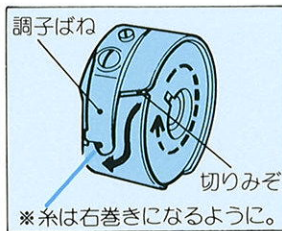
※巻き終わると、ボビン押えが自動的に離れて停止します。

⑫ストップモーション大ねじを締めます。



⑬つまみを閉じて、糸は右巻きになるようにし、ボビンをボビンケースに入れます。

⑭切りみぞに糸をすべり込ませ、調子ばねの下をくぐらせて、糸を10cmほど出しておきます。

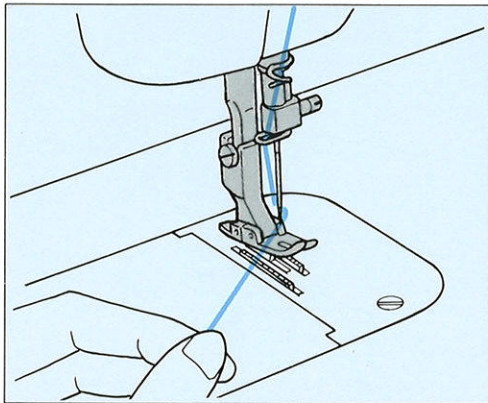


⑮つまみをいっぱい開いて、ボビンケースを軸に差し込みます。

※しっかりセットされていないと始動とともにボビンケースがとび出してきます。

⑯すべり板をもとにもどします。

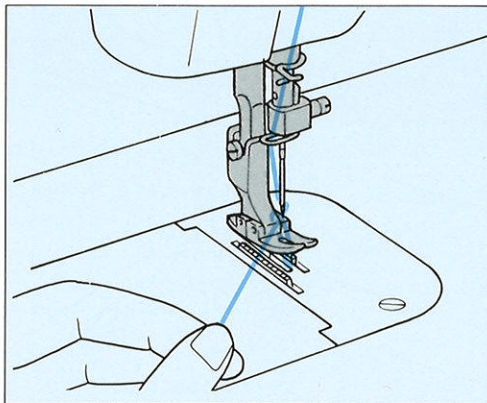
下糸の引き上げ方



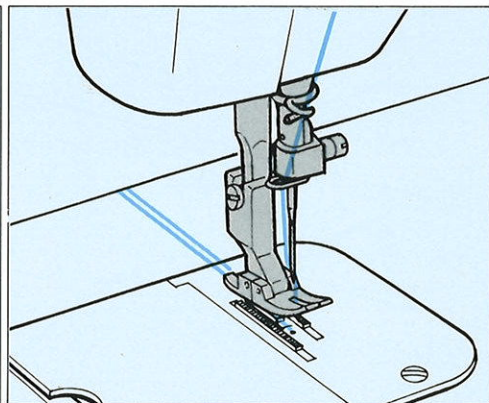
① 上糸を軽く持ちます。

② プーリーをゆっくり一回転させます。

※糸を手前に軽く引き、糸がかかっているか確認してください。



③ 上糸を引いて下糸を引き出します。

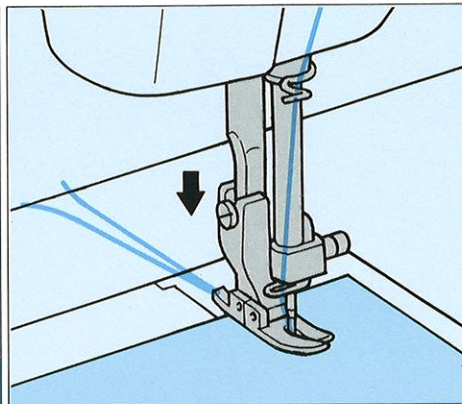
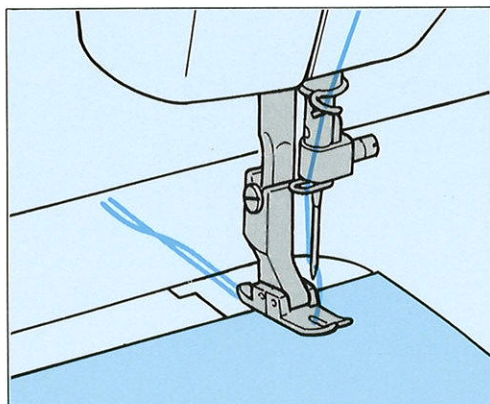


④ 上糸と下糸を15cmほど出しておきます。

試しぬい

送り調節ダイヤルを希望のぬい目の長さに合わせてください。

ぬい始め



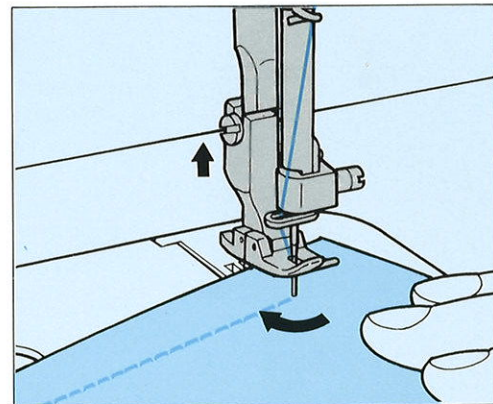
① 上糸と下糸を15cmほど出し、針を上げたまま布地を押えの下におきます。

② 押えを下げます。

③ 針を布地に刺してコントローラーをゆっくり踏み、スタートします。

※ベルベットをぬうときは、16～21ページをご覧ください。

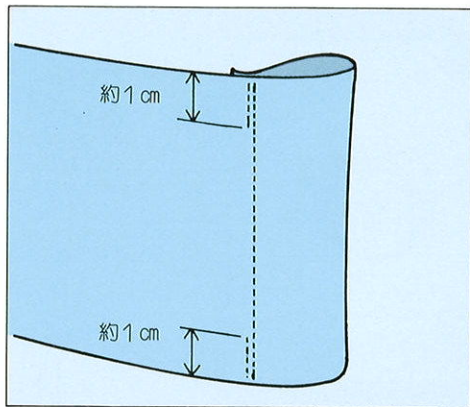
ぬい方向を変える場合



① 針を布地に刺しておきます。

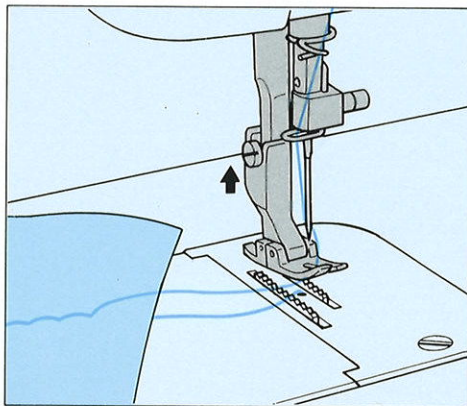
② 押えを上げ、針を軸に布地を回します。

止めぬい



約1 cmの位置で返しぬいレバーを押し、ぬい目の上をぬい返します。

ぬい終わり



- ① 針を最高の位置に上げます。
※ドリップフィードつまみをベルベット以外にしてください。
- ② 押えを上げ、布地を引き出して糸を切ります。

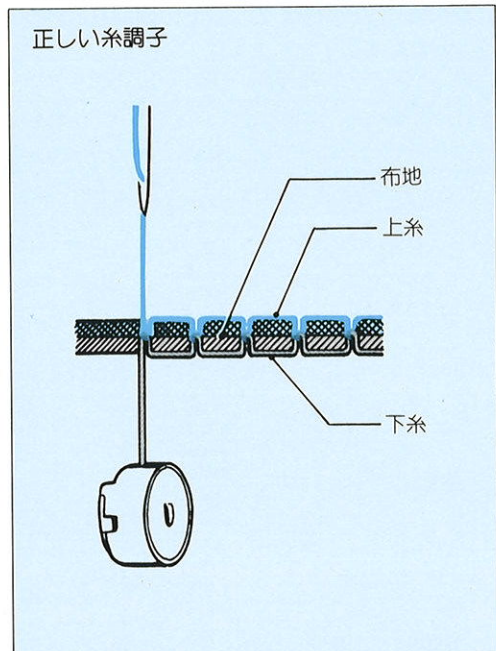
● 布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

☆ この表はいろいろなぬい方すべてに関係します。

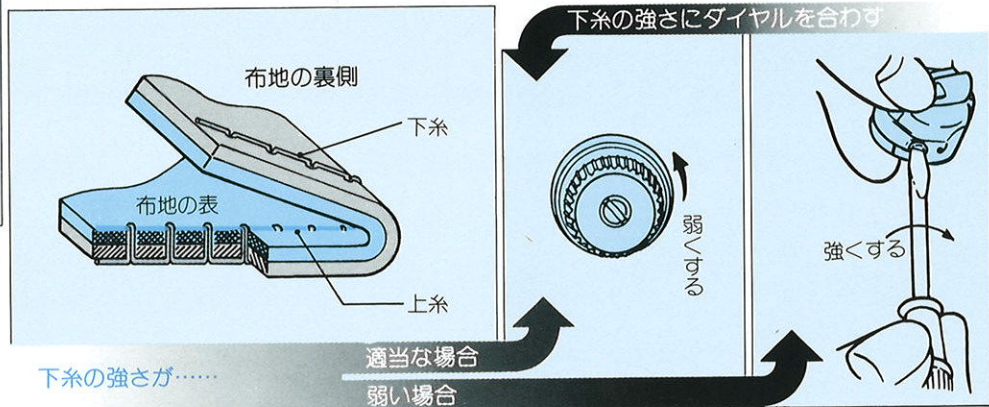
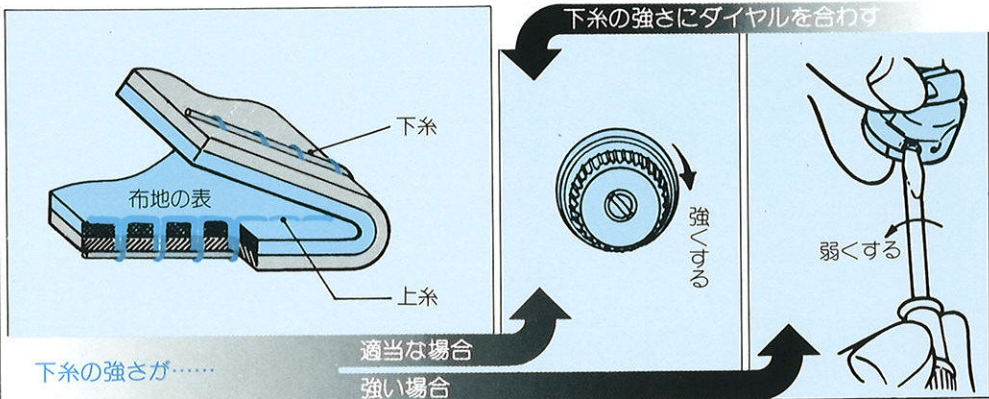
	布地・ミシン糸・ミシン針の関係		
	布 地	ミシン糸	ミシン針
ぬいずれの 起こりやすい 布地ぬい	ベルベット	絹糸、合繊糸 30番～50番	11番～14番
	セシナー キルト	合繊糸 20番～50番	11番～16番
	人工スエード	合繊糸 20番～50番	
	ハイミロン ニット	合繊糸 20番～50番	
	ラッセル コーティング	合繊糸 50番	11番～14番
薄地ぬい	ローン	カタン糸 80番	9番
	トリコット	合繊糸 60番	
	ジョーゼット (絹)	絹糸 50番	11番
	ウール・ ジョーゼット	絹糸、合繊糸 50番	
普通ぬい	ギンガム	カタン糸 60番～80番	11番～14番
	薄手ジャージ	合繊糸 60番	11番
	ギャバジン、 フラノ	絹糸 50番	
厚地ぬい	デニム	カタン糸 20番～50番	14番～18番
	ジャージ	合繊糸 20番～50番	11番～16番
	ツイード	絹糸 20番～50番	

糸調子

※ボビンケースの糸調子は、下糸がひっかかりなくなめらかになる程度が適当です。下糸に合わせて上糸を調節してください。



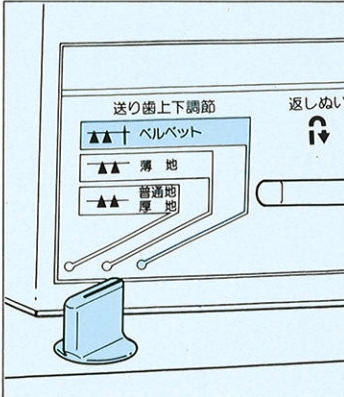
糸調子が正しく調節されていないとぬい目がきたなく、布地にしわがよったり糸が切れたりします。



ベルベット(ぬいずれの起りやすい布地)のぬい方

ぬう前の準備

押え圧力	布 地	送り歯上下位置
	ベルベット セシーナキルト 人エスエード ハイミロンニット ラッセルコーティング その他	

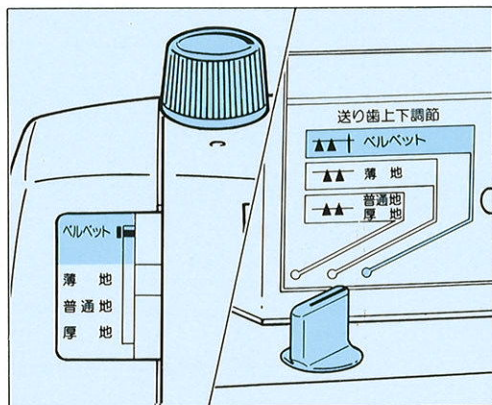


①お縫いになる布地名に指針を合わせます。

上表の布地名は一例です。表以外の布地は、お縫いになる布地によって押え圧力を調節してください。

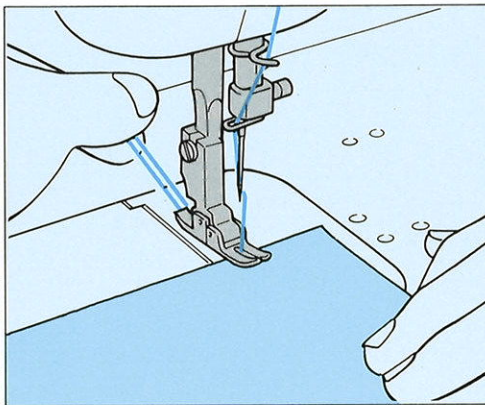
②ドロップフィードつまみを〈ベルベット〉にします。

地ぬい

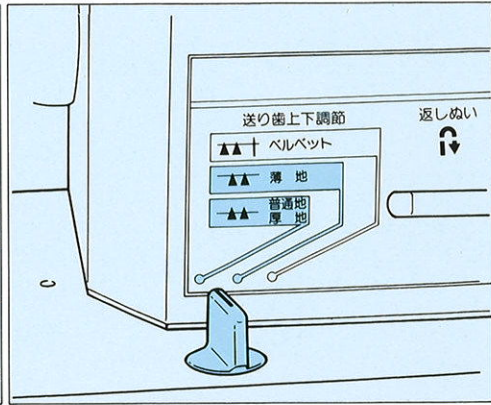


① 押え圧力を〈ベルベット〉にします。

② ドロップフィードつまみを〈ベルベット〉にします。

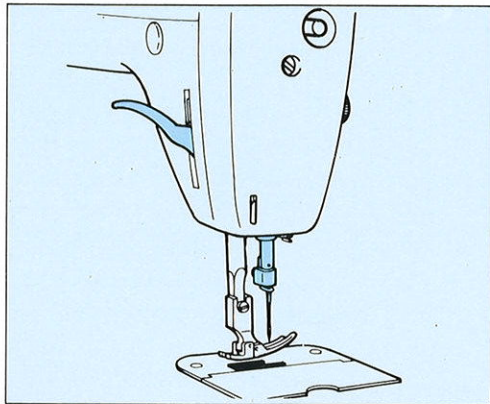


③ 布地が下針にかかるまでぬい糸を引っぱりながらぬい始めます。

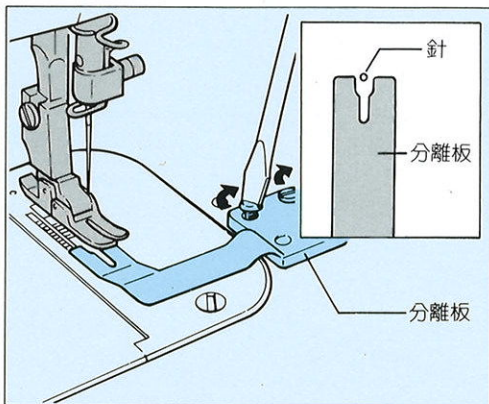


④ ぬい終わったらドロップフィードつまみを〈ベルベット〉以外にして、下針を下げ布地を引き出します。

(裏地つけ)



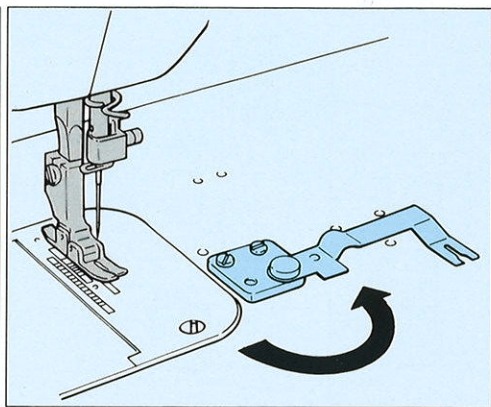
① 押えを上げ針を最高位置にします。



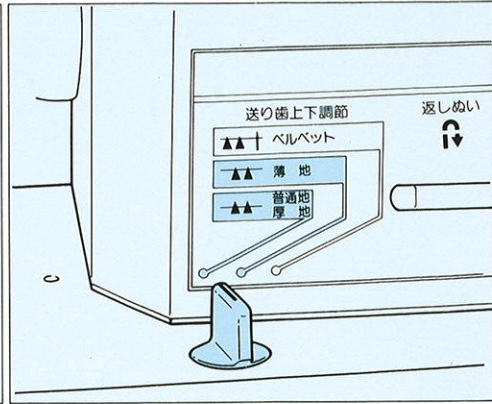
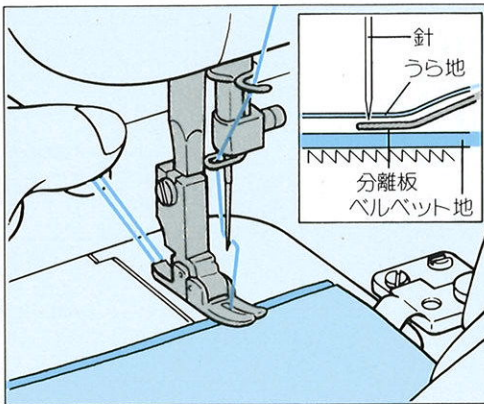
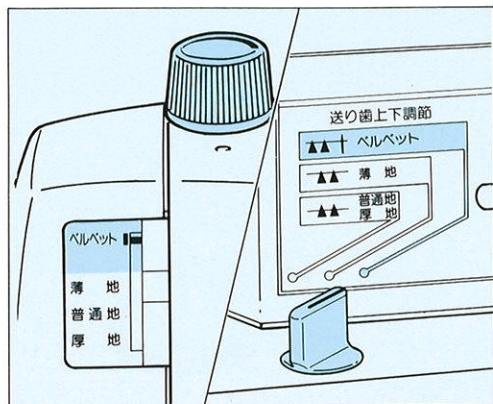
② 分離板を押えの下に入れます。

③ 針が分離板のみぞの中央になるようにして、針と分離板が当たらないことを確認します。

④ 分離板締めねじ（2本）を締めます。



● 使わないときは分離板を図のようにします。



⑤ 押え圧力を〈ベルベット〉にします。

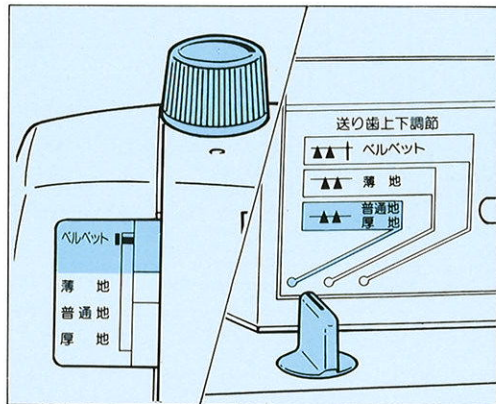
⑥ ドロップフィードつまみを〈ベルベット〉に合わせます。

⑦ 布地が下針にかかるまでぬい糸を引っぱりながらぬいだします。

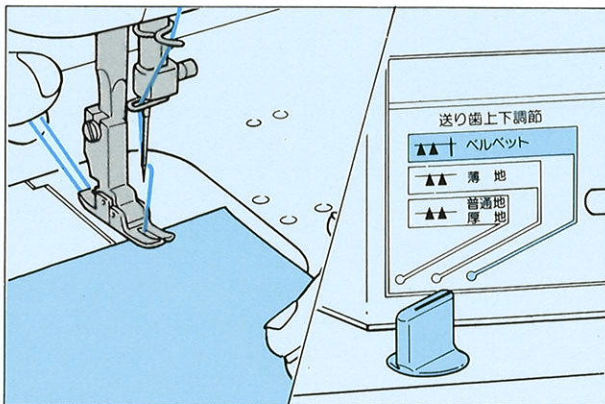
※返しぬいは2～3針までにしてください。

⑧ ぬい終わったらドロップフィードつまみを〈ベルベット〉以外にして、下針を下げ布地を引き出します。

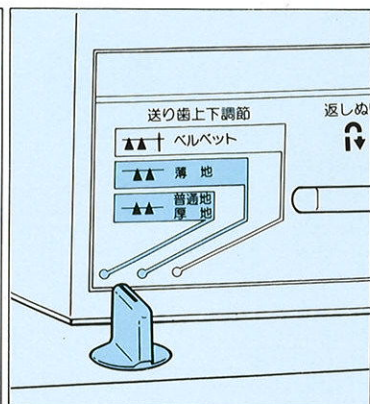
飾りステッチ



- ① 押え圧力を〈ベルベット〉にします。
- ② ドロップフィードつまみを〈普通地・厚地〉にします。

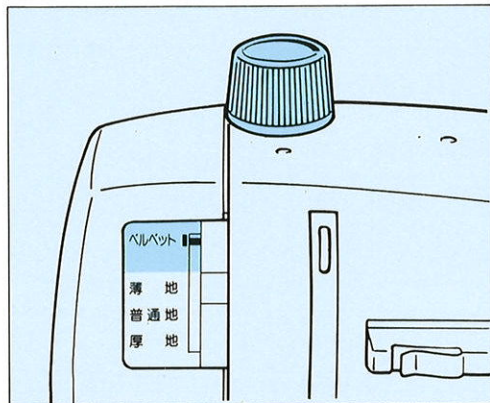


- ③ 布地が下針にかかるまでぬい糸を引っぱりながらぬい始めます。
- ④ 布地が下針にかかる位置に来たらドロップフィードつまみを〈ベルベット〉にします。

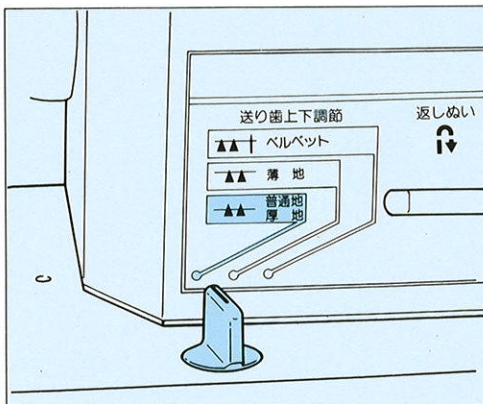


- ⑤ ぬい終わったらドロップフィードつまみを〈ベルベット〉以外にして、下針を下げ布地を引き出します。

布地の途中からぬい始めるには(下針が出ていると布地に引っかかる場合があります。)

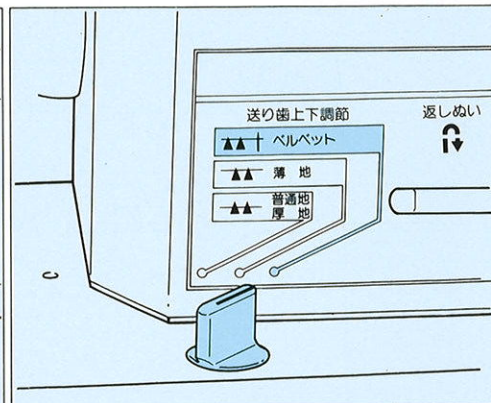


① 押え圧力を〈ベルベット〉にします。



② ドロップフィードつまみを〈普通地・厚地〉にします。

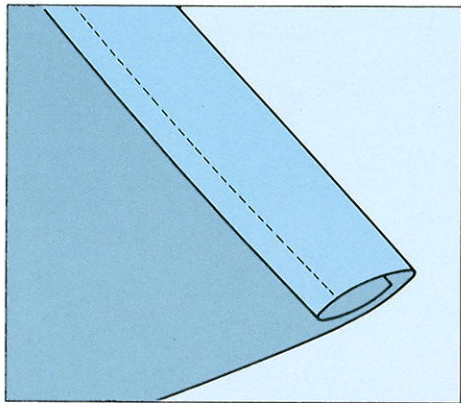
③ 押えを上げ布地を入れます。



④ ドロップフィードつまみを〈ベルベット〉にします。

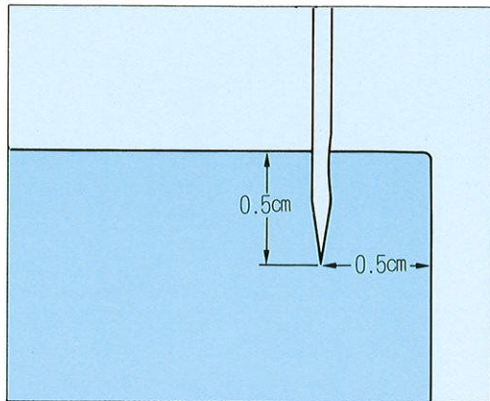
⑤ 押えを下げぬい始めます。

三つ巻きぬい



布端を三つ折りに仕上げながらぬい上げるのに使います。

※ワイシャツのすそ・エプロンなどのフリルの端、主に布端のしまつに用います。

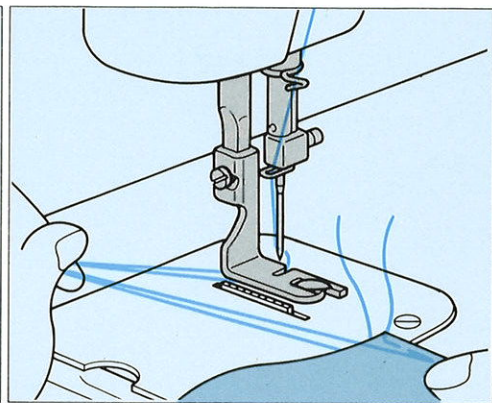


①ドロップフィートつまみを〈薄地〉にします。

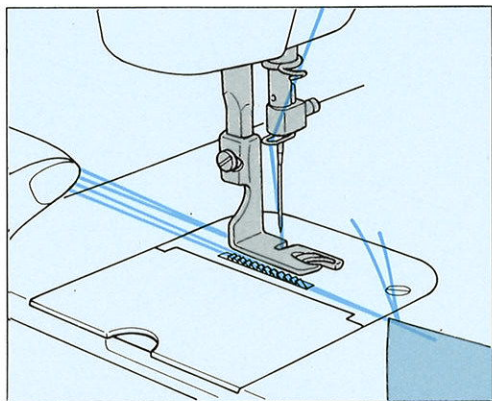
②三つ巻き押えに付け替えます。

③布端から約0.5cm入ったところに針をおとし、2針ぬいます。

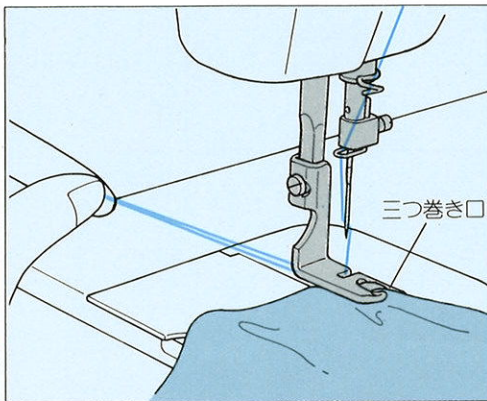
※押えの取り替えは24ページをご覧ください。



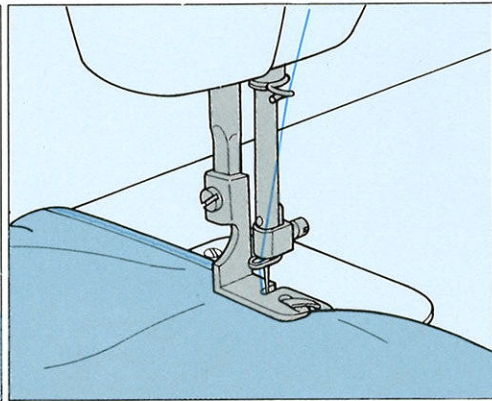
④針を上げ布地を手前に引きます。



⑤ 左手で4本の引き糸を持ちます。

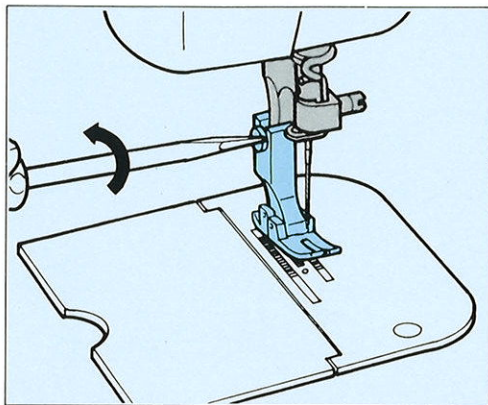


⑥ 右手で布端を持って三つ巻き口に引き糸部分から差し入れ、針おちの向こうまで布地の端を入れます。

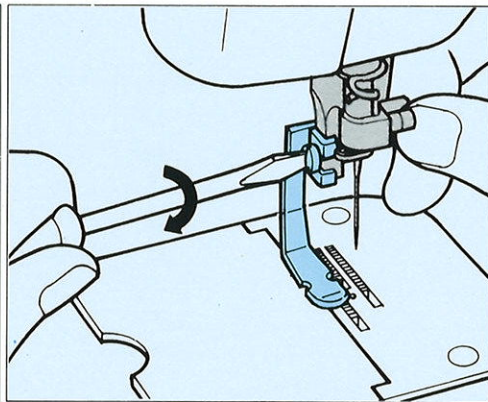


⑦ 始めの3~4針はこの引き糸を向こう側へ引っ張りぎみにすると簡単にぬうことができます。
⑧ 巻き込み幅を0.5cmほどかぶせるようにして布地を持ちます。巻き込み幅を適度に加減しながらぬいます。

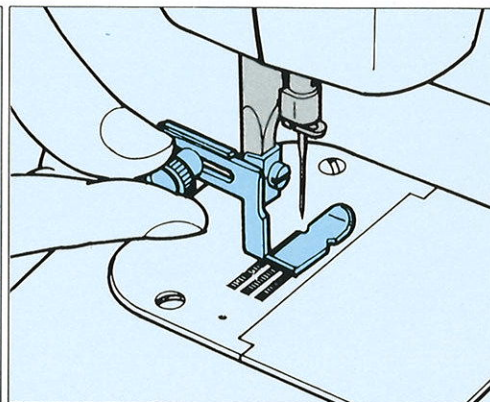
押えの取り替え方



- ① 押えを上げて針を最高位置にします。
- ② 押え締めねじをゆるめて取りはずします。



- ③ 片押えを取り付け、ねじを締めます。
- ※ 三つ巻き押え・コンシール押えも同様に行ってください。

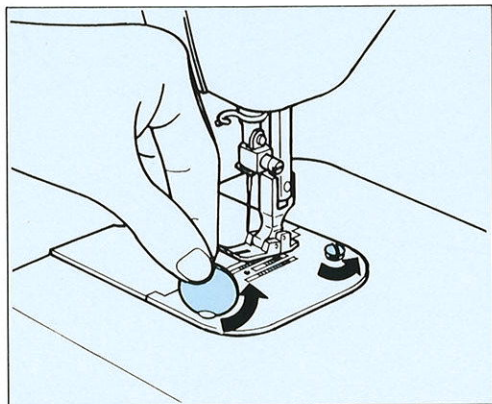


- 片押えの位置は調節ねじで変えることができます。

針板の取り替え

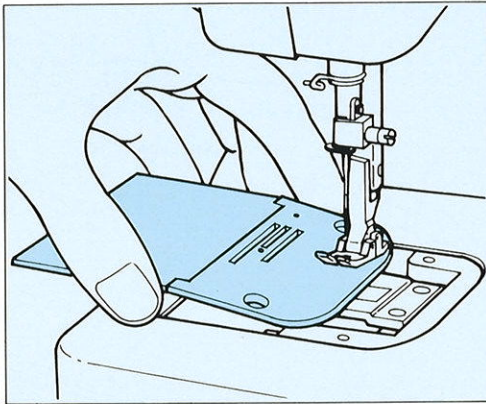
トリコット・ジョーゼット・ローンなどの薄地をぬう場合、針板針穴の小さい方を使うとぬい縮みが少なく美しく仕上がります。

※針は14番以下のものをお使いください。

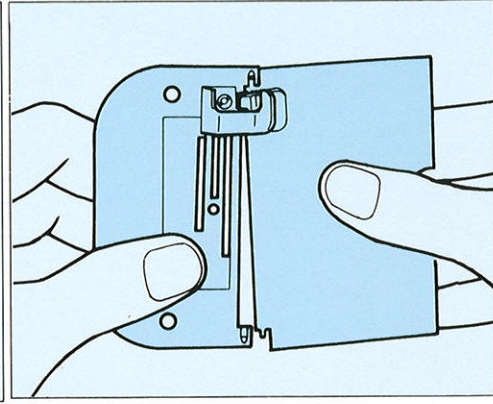


① 針と押えを上げます。

② 針板皿ねじをゆるめてははずします。

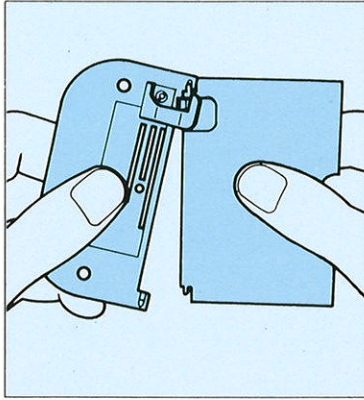


③ 持ち上げながら引っ張り出します。

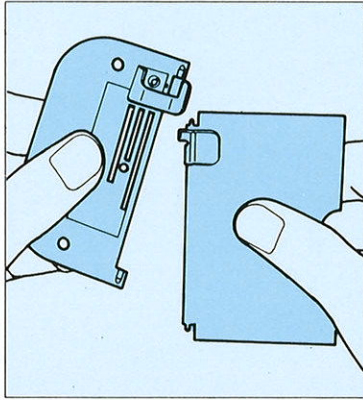


④ みぞからピンをはずします。

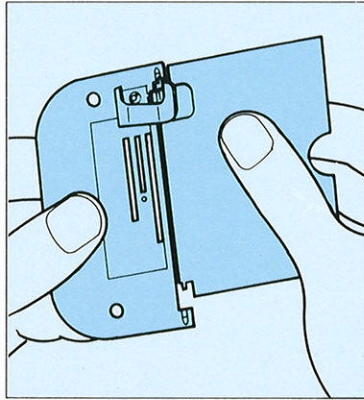
薄物用針板を取り付けます。



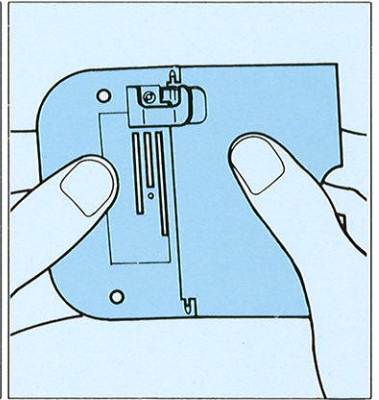
⑤ すべり板を下に押し下げます。



⑥ みぞからピンをはずし、針板とすべり板を分けます。



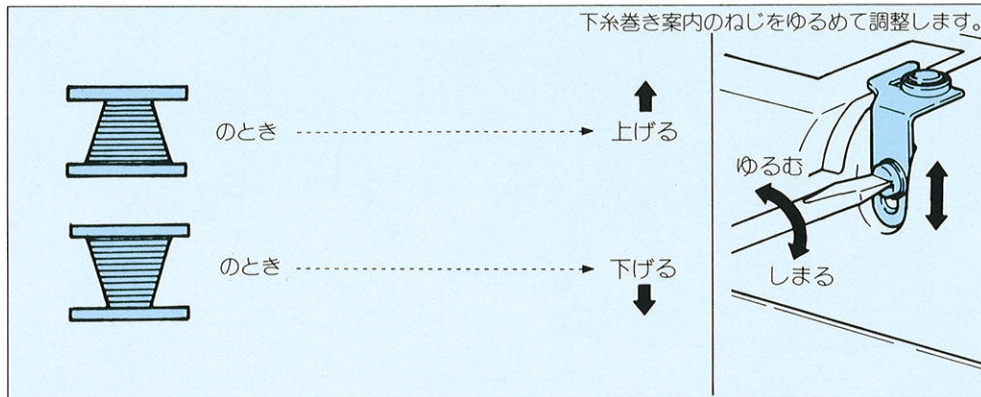
⑦ ストッパーを針板ばねの下にくぐらせながらみぞにピンを入れ、取り付けます。



⑧ 下のピンをみぞに入れます。

簡単な調整

● 下糸巻き案内の調整



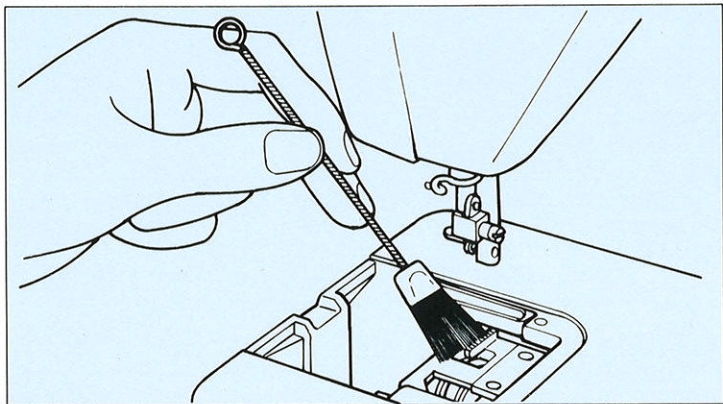
ポビンに糸が平均に巻かれないときは、
下糸の糸調子が悪くなる原因になります。



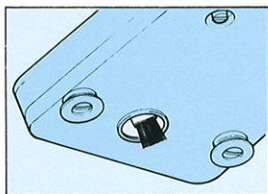


ミシンの手入れと注油

●送り歯とかまの掃除



- ①針・押え・針板を取りはずします。
- ②付属のミシンブラシで糸くず・布くずで汚れた送り歯・下針とかま周辺の掃除をしてください。

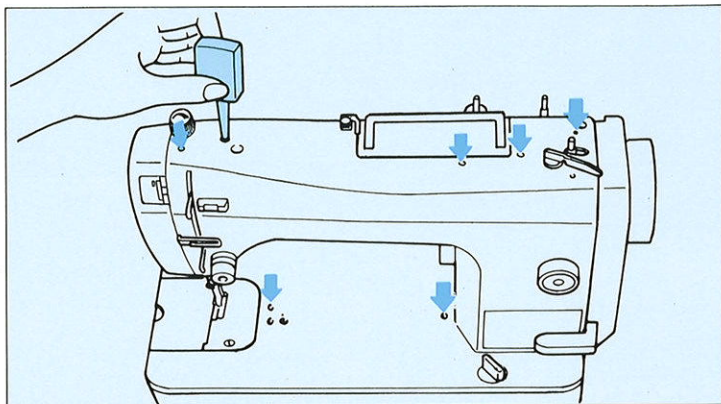


- 底板のキャップを取りはずし、かま内部の糸くず、布くずを掃除してください。
- ※掃除後、必ずキャップをはめてください。
- ※1カ月に一度くらい掃除してください。
(毎日数時間ご使用の場合は、1日に一度掃除してください。)

(注意)

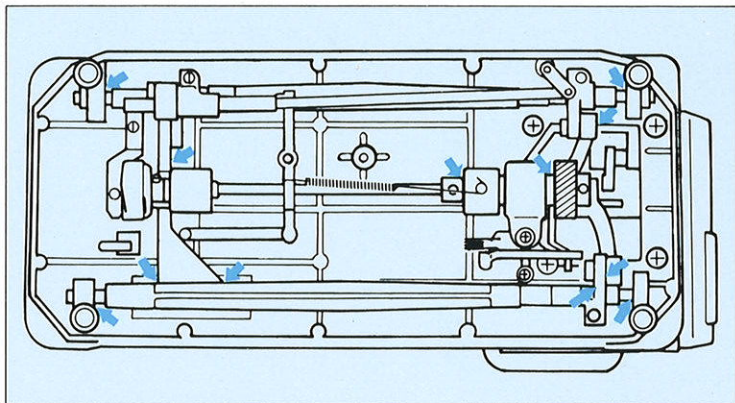
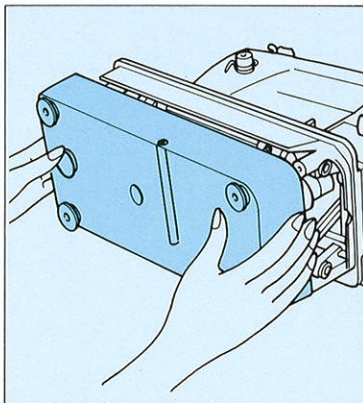
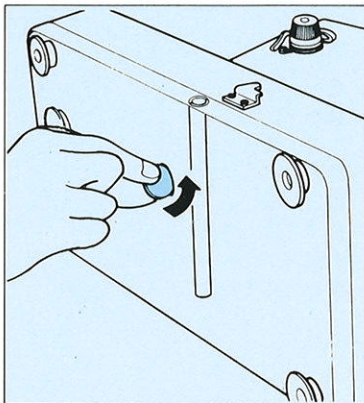
かま周辺の掃除のときには、かま部へ1~2滴注油してください。注油後は少し試しぬいをしてください。

●注油



- ※矢印の箇所に2~3滴注油してください。
- 注油箇所付近に付着した油は布できれいにふき取ってください。
- ※注油は付属のミシン油をご使用ください。
- ※1カ月に一度くらい注油してください。
(毎日数時間ご使用の場合は、1日に1回注油してください。)
- ※注油はミシンの使用後に行い、必ず空回転をしてください。

● 底板のはずし方


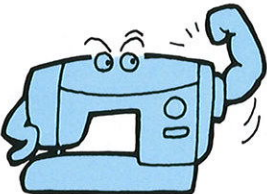


- ① ミシンを横に倒して中央の締めねじ
をはずします。
- ② 底板を取りはずします。

※ 矢印の箇所に注油してください。

調子よくぬえない原因と調整の仕方

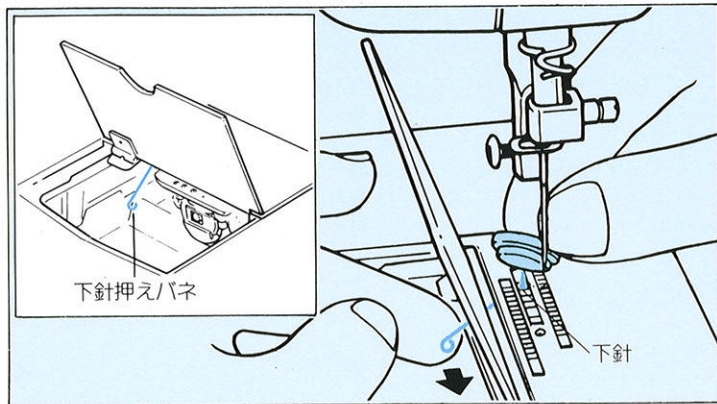
このミシンは、むずかしい専門的な調整をしないですむよう設計されています。
つぎのような場合は基本的な調整ができないときに起こりやすい故障ですからよく覚えておいてください。

	1.布地を送らない	2.針が折れる	3.上糸が切れる
<p style="text-align: center;">原 因</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ① 押えの圧力が弱すぎる場合 ② 厚地で送り歯が低い場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 針が曲がっていたり、針先がつぶれている場合 ② 針の取り付けが悪い場合 ③ 布地を引つ張った場合 ④ ミシン針・ミシン糸・布地の関係が悪い場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 糸の通し方が間違っている場合 ② 糸が必要以上のところからみあっている場合 ③ 糸調子が強すぎる場合 ④ 針の取り付けが悪い場合 ⑤ 悪い針を使用した場合 ⑥ 針穴より太い糸を使用した場合 ⑦ かまにきずができた場合
<p style="text-align: center;">調整の仕方</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ① 押え圧力つまみを右へ回し押え圧力を強くします。5ページをご覧ください。 ② ドロップフィードつまみで送り歯の高さを直してください。5ページをご覧ください。 ③ ベルベットを使用しているときは、下針を確認してください。16～21ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しいミシン針と取り替えます。5ページをご覧ください。 ② 正しく取り付けます。5ページをご覧ください。 ③ ぬいながら布地を強く押さえたり引つ張らないでください。 ④ 布地に対して適当なミシン糸、ミシン針を選んでください。14ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しく通し直してください。9ページをご覧ください。 ② 糸立棒、糸かけなどにひっかかっているか確認してください。 ③ 15ページをご覧ください。 ④ 5ページをご覧ください。 ⑤ 5ページをご覧ください。 ⑥ 14ページをご覧ください。 ⑦ 小さなきずのとき→ペーパー(#800)でみがいてください。 大きいきずのとき→お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

4. 下糸が切れる	5. 目とびがする	6. むい目の調子が悪い	7. むい物にしわがよる
<ul style="list-style-type: none"> ① ボビンケースに糸の通し方が間違っている場合 ② ボビンケースの調子ばねを強く締めすぎた場合 ③ かまにきずができた場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 針が曲がっていたり、針先がつぶれている場合 ② 針の取り付けが不完全な場合 ③ 粗悪なミシン針を使用した場合 ④ 糸くずが針板の下部に付着している場合 ⑤ 布地・ミシン糸・ミシン針の関係が悪い場合 ⑥ 布地と針板の針穴の関係が悪い場合 ⑦ 糸の通し方が間違っている場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 上糸・下糸の調子が不完全な場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 糸調子が強すぎる場合 ② 糸の通し方が間違っていたり余分な箇所糸が引っかかっている場合 ③ 押えの圧力が強すぎる場合 ④ 布地と針板の針穴の関係が悪い場合 ⑤ 薄地で送り歯が高い場合
<ul style="list-style-type: none"> ① 正しく直してください。11ページをご覧ください。 ② 正しく通してください。15ページをご覧ください。 ③ 小さなきずのとき→ペーパー(#800)でみがいてください。 大きなきずのとき→お買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しい針と取り替えてください。5ページをご覧ください。 ② 正しく取り付けてください。5ページをご覧ください。 ③ ミシン針DB×1をご使用ください。 ④ 針板を取りはずして掃除してください。25～26ページをご覧ください。 ⑤ 正しい組み合わせにしてください。14ページをご覧ください。 ⑥ 付属品の薄物用針板に取り替えてください。25～26ページをご覧ください。 ⑦ 正しく通し直してください。9ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しい糸調子にしてください。15ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 薄物をぬうときは上糸、下糸ともにできるだけ調子をゆるくします。15ページをご覧ください。 ② 正しく通し直してください。9ページをご覧ください。 ③ 押え圧力つまみを左に回して押え圧力を弱くしてください。 ④ 付属品の薄物用針板に取り替えてください。25～26ページをご覧ください。 ⑤ ドロップフィードつまみで送り歯の高さを直してください。5ページをご覧ください。

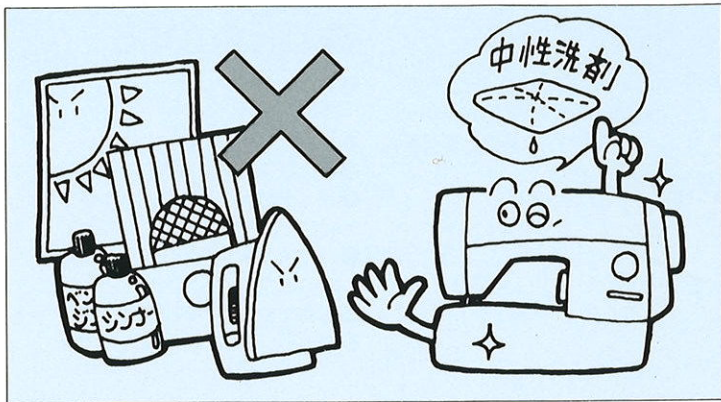
いつまでも大切に使うために

●下針を交換するには



- ① 押えを取りはずします。
- ② ドロップフィードつまみを〈ベルベット〉にします。
- ③ 送り調節ダイヤルを〈7〉にします。
- ④ プーリーを回し下針を最高に出します。
- ⑤ すべり板をはね上げます。
- ⑥ 下針押えパネを手前に引き、下針交換ゴムを下針に押し付けて、下針を抜き取ります。
- ⑦ 入れるときは、下針交換ゴムに下針を差し、下針押えパネを手前に引いてから差し込みます。

●いつもきれいに

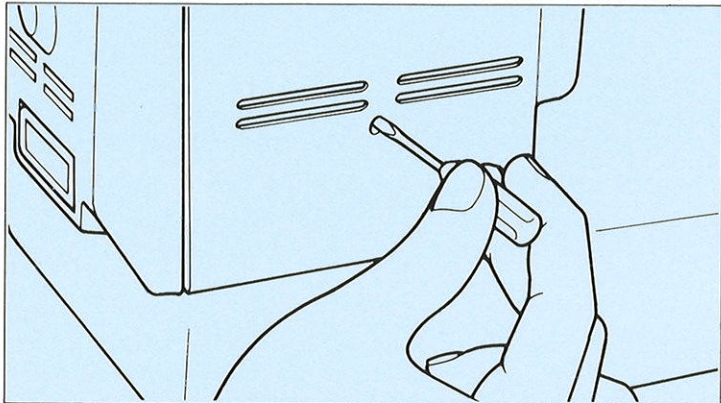


かるい汚れは、やわらかい湿った布でふいてください。ひどい汚れは中性洗剤に浸した布できれいにふき取ってください。

(注意)

- ① ストープやアイロンなどは近づけないでください。
- ② ベンジン・ガソリン・シンナーなどは使わないようにしてください。
- ③ 保管するときは、できるだけ直射日光をさけてください。

● ミシンが動かなくなった場合（糸がかまに くい込んだとき）



● ミシンの動かない状態が約2秒以上続きますと安全装置がはたらき、ミシンが自動的に止まります。

- ① ミシンが動かない原因を直してからねじ回し(小)の先端またはピンなどで、安全装置ボタンをかるく押し込んでください。
- ② ミシンが動かなくなってから約10秒以内は、安全装置ボタンを押さないでください。

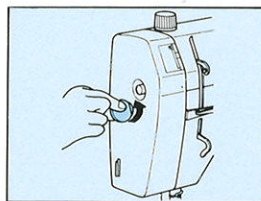
● カーボンブラシを取り替えるには

このミシンに使用しているモーターには、カーボンブラシが2個取り付けられています。長くご使用いただくと、カーボンブラシが摩耗します。摩耗したカーボンブラシを、そのままお使いになりますと、モーターから火花が出たり、モーター故障の原因になりますのでご注意ください。

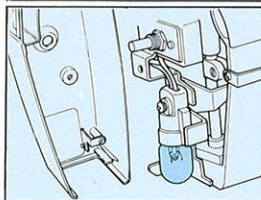
※カーボンブラシを取り替えたいとき

販売店でご購入いただき、交換・調整サービス(有料)を受けてください。

● ランプの交換



① 面板締めねじをゆるめてははずし、面板を取りはずします。



- ② ランプを回し下方に取りはずします。
- ③ 正常なランプをいっぱいまで回し取り付けます。
- ④ 面板を取り付けます。

仕 様

項 目	仕 様
ぬい速度(最高)	毎分 1,500針
ぬい目長さ(ピッチ)	0~7mm
針棒のストローク	31.6mm
天びんのストローク	59mm
布 押 え 高 さ	押え上げてこ 一段目 6mm ひざ上げレバー 二段目 9mm 12mm
送り歯の高さ	0.7mm(下針作動時) 0.7mm 1.1mm
下針の高さ	3.5mm~4.0mm
使用可能なミシン針	DB×1 #9~#18
ベッドサイズ	399mm×178mm
ふところの広さ	226mm×145mm
ミシン総重量	10kg
モーター定格	電圧100V 50/60Hz
ビルトインランプ	電圧100V 12W 50/60Hz
裁縫可能面積	595mm×285mm

●アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
(詳しくは保証書をご覧ください。それ以後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。)
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、お買い上げ日から最低8年保有しています。
 - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または右記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

お客様相談コーナー

札幌	011(737)6821	仙台	022(239)3601
東京	03(265)8741	静岡	0542(82)2951
名古屋	052(962)7631	大阪	06(768)3651
広島	082(227)5781	久留米	0942(44)7921

※上記の電話番号は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

株式会社 ジューキ

本社 〒104 東京都中央区八重洲2-7-2(八重洲三井ビル)
TEL 03(272)2851(代表)